

# サステナビリティ報告書

二〇二五



45周年記念社員旅行（北海道・札幌）



株式会社エフコムは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

株式会社 **エフコム**

F-COM Co.Ltd.



ICTソリューションの提供を通じ、お客様のより良いビジネスパートナーとして、経済・環境・社会に積極的に貢献して参ります。



## INDEX【目次】

■ トップメッセージ	3
■ 特集1【ドリームプロジェクトについて】	4
■ 特集2【ドリーム・ラボ上伊豆島での取り組みについて】	6
(1)上伊豆島地区の『お花見』＆『桜のライトアップ』	6
(2)美化活動について	6
(3)上伊豆島盆踊りを開催	6
■ 特集3【『Connect 2024 in Koriyama, with UDC』 ハッカソンで郡山市長賞受賞！】	7
■ 特集4【健康経営推進WGの活動について】	8
(1)「2025 みずウォークきたしおばら大会」への参加	8
(2) エフコムBCコラボ企画「川俣町つながる野球・ソフトボールフェスティバル」への参加	9
■ 地域への貢献（地域社会とともに）	10
(1)みらい発見フェスこおりやま2025への参加	10
(2)ふくしまシティハーフマラソンボランティアへの参加	10
(3)エフコムBC（ベースボールクラブ）	11
■ 人を育む【エフコムの塾】	13
■ 森を育む【エフコムの森】	15
■ 共に育む【エフコムの輪】	17
(1)「水顧電（すいこでん）クラウド」の紹介	17
(2)「答べんりんく（Touben LinQ）」の紹介	18
(3)「獣（じゅう）マップ」の紹介	19
(4)「スッキリオーダーズ」の紹介	20
(5)「糖尿病クラスターAI分類」の紹介	21
(6)「ふくしま共創チーム」の紹介	22
■ 信頼への取り組み	23
(1)品質向上（ISO9001）への取り組み	23
(2)情報セキュリティマネジメント（ISO27001）への取り組み	23
(3)ITサービスマネジメント（ISO20000）への取り組み	24
(4)クラウドサービスセキュリティ（ISO27017）への取り組み	24
(5)個人情報保護（Pマーク）への取り組み	24
■ データセンターが貢献するサステナブル社会	25
(1)データセンターの紹介と環境負荷低減	25
(2)データセンターが高度に共助し貢献する「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について	26
(3)プリントBP0サービスの展開	27
■ エフコムグループ45周年特集	28
創立45周年記念社員旅行	28
株式会社エフコム 45年のあゆみ	30
■ ビジネスインフォメーション	38

# トップメッセージ

## Trusted and Grow Up (信頼&成長)

～ 100年後も持続可能な企業であるために ～

エフコムは、国連が2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、企業価値を高める活動を積極的に行ってまいります。社員の皆さんとともにSDGsについて様々な角度から考え「誰も置き去りにしない」世界の実現をめざします。



私たちは「チームエフコム」の精神により「Smart thinking for you」の文化を醸成し、「お客様と共に感動を創造する企業」を目指し活動しております。

また、DX(Digital Transformation)の進展により、近未来のサステナブル社会(Society5.0)への変革が進む中、当社の果たすべき役割は多岐にわたり可能性を秘めていると考えております。

多様化するニーズや社会環境の変化をとらえ「デジタル革新」へ積極的に取り組み、お客様や社会が求める持続可能な新たな価値を実現する変革を起こし、共創によりイノベーションを加速させてまいります。

そのような状況下において、持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals) の取り組みの意味および重要性を理解し取り組みを加速させております。

当社は、SDGs・ESG (Environment Social Governance) を事業並びに経営へ展開すべく未来志向で何をすべきなのかを考え積極的に取り組んでおります。

毎年発行の当サステナビリティ報告書は、社会における企業価値を考え、社会活動を行っている取り組みを広報してまいりました。当年度も様々な取組を行ってまいりましたが、新たに「ふくしま創生・人口戦略 官民連携・共創チーム」へ参画させていただきました。県や市町村・企業団体の皆さんとの連携をさらに深め、共に考え、共に挑戦する『共創』によって持続可能で豊かな福島の未来を拓く重要な一步と考え、当社もその責任をしっかりと果たしてまいります。

今後も「未来世代も含めたあらゆる人びとが、豊かで安心して暮らすことができる社会を目指し」さらにSDGs経営やESG経営を、本質的かつ普遍的な企業価値と捉え、その実績が広報できるよう取組んでまいります。

また、2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの生活様式や働き方に対する変化への対応が求められ、新たな社会の在り方が構築されるなか、エフコムは、今後もいかなる変化にも対応し、「サステナビリティ」を経営の優先課題と捉え、事業を通じた社会課題の解決に全力で取り組んでまいります。



代表取締役社長

吉 藤 正 弘

## 【ドリームプロジェクトについて】

ドリームプロジェクトは、エフコムの魅力を社内外に発信し、ブランド力を高めるとともに、若手社員のスキルアップを目的とした社内公募型プロジェクトです。活動方針は「エフコムが楽しそう、と外部に伝える」「若手のスキルとスピード感を上げる」「マーケティングの意識を身につける」という3つの柱で構成されています。

<目的>

- ・エフコムのブランド価値を高め、外部にポジティブなイメージを発信する。
- ・若手社員（入社2～8年目）を対象に、マーケティング思考と実践力を養う。
- ・社員自らが地域課題に向き合い、解決策を企画・実行することで、主体性と創造力を育成する。

### ＜活動内容＞

- ・社内公募によりメンバーを選出し、ドリーム・ラボ上伊豆島で月2回程度のミーティングを実施。マーケティング基礎講座やマーケティング手法による調査を行い、地域課題への取組みを推進。

### 【2024年度の取組み】

2024年度は「地域課題の解決」をテーマに、マーケティングの実践を通じて新しい価値創出に挑戦しました。部署を問わず19名が参加し、以下の流れで活動を進めました。

## ◆マーケティング基礎講座：

4P (Product・Price・Promotion・Place) を学び、課題解決に必要な視点を習得。

### ◆地域課題の特定と役割分担：

ターゲット分析や市場調査を実施。

◆調査・分析：

事業者調査、注意点整理、市場調査、ターゲット調査を行い、仮説を立ててプロファイリング。

### ◆コンセプト策定と企画案作成：

事業計画書、申請書、予算書などを作成し、実現可能性を検討。

◆イベント企画・実施：

南相馬市を舞台にした「南相馬馬事公苑活性化プロジェクト」を推進。



## 南相馬馬事公苑活性化プロジェクト取組み

南相馬市は、千年以上続く「相馬野馬追」を基軸とした歴史と文化を持つ、馬と共生する町です。

しかし、国体を機に整備された南相馬市馬事公苑は、利用者数の減少や認知度不足といった課題を抱えており、施設の活性化が急務となっています。こうした背景から、ドリームプロジェクトでは「南相馬市を馬の聖地にする」というコンセプトのもと、地域活性化に取り組みました。





## 南相馬馬事公苑活性化プロジェクト取組みの柱

- 施設の強みを活かした差別化

東日本一の長さを誇る 2500mクロスカントリーコースを活用。海辺で乗馬ができる「烏崎海岸」や町中での馬散歩など、他地域では体験できない魅力を検討。

- イベント企画による集客

撮影イベント「わたしと馬と南相馬」を開催。プロカメラマンやドローン撮影を導入し、愛馬との写真・動画撮影を楽しめる体験を提供。

- 安全性・利便性の向上

クロスカントリーコースに定点カメラを設置し、落馬などのトラブル対応を迅速化。将来的にはフォームチェック機能を導入し、トレーニング環境を整備。

## 撮影イベント「わたしと馬と南相馬」

2025年6月、南相馬市馬事公苑を舞台に撮影イベント「わたしと馬と南相馬」を開催しました。本イベントは、福島県の地域創生総合支援事業の補助制度を活用し、南相馬市を「馬の聖地」としてブランディングする取り組みの一環です。

本イベントでは、プロカメラマンによる写真撮影とドローン映像撮影を行い、参加者には編集後の動画と写真をプレゼントしました。撮影場所は南相馬市馬事公苑を中心に、相馬小高神社や烏崎海岸など、南相馬ならではの自然と歴史を感じられるロケーションを選定しました。また、他施設では難しい仮装やコスプレ撮影も許可し、利用者の希望を叶える柔軟な対応を実施しました。このイベントは、馬術愛好者に特別な体験を提供するとともに、南相馬市の魅力を広く発信し、地域活性化と交流人口の拡大を目指しました。



## 【2025年度の取組み】

2025年度のドリームプロジェクトは、テーマを「エフコムのブランディング」とし、企業価値を高めるための戦略的な取り組みを進めています。活動方針は「考えていることを形にし、エフコムをもっとカッコよくしよう！」であり、マーケティングの視点を活かしながら、社内外にエフコムの魅力を発信することを目的としています。

### 活動の目的

- エフコムのブランド力を確立し、企業イメージを向上させる。
- 社員のマーケティングスキルを強化し、課題解決力を育成する。
- 若手社員の主体的な参加を促し、組織全体の活性化を図る。

### 今後の展望

2025年度内に改善案を具体化し、ホームページリニューアルやSNS戦略を実行予定。これにより、採用力の強化、顧客へのブランド浸透、地域社会とのつながり強化を目指します。

## 特集 2

# 【ドリーム・ラボ上伊豆島 での取り組みについて】

### (1) 上伊豆島地区の『お花見』＆『桜のライトアップ』

郡山市熱海町上伊豆島地区の地域行事である「お花見」が開催されました。

当日は実行委員会が準備した手作り料理（豚汁・焼きそば・お汁粉・唐揚げ・牛タン串・玉こんにゃく等）が参加者全員にふるまわれ、ビンゴ大会も行われ楽しく盛り上がりしました。



### (2) 美化活動について

2023年度から美化活動を定期的に行っています。

春夏には主に草刈りと草むしりを行い、秋には落ち葉拾いや落ち葉が堆積した側溝の清掃を行っています。また、花壇の整備や手入れも行っています。

2025年度も6回の活動を実施し、延べ151名が参加しました。

活動後には飲み物とお弁当を配布しており、朝から体を動かして汗をかいた後のお弁当は格別です。



### (3) 上伊豆島盆踊りを開催

8月には地域の皆さんとともに「盆踊り大会」を開催しました。当日は地元の方々と朝5時に集合し、声を掛け合いながら汗を流し、駐車場に立派なやぐらを完成させました。屋台の準備も地域の皆さんと一緒にを行い、食材の仕込みや設営を通じて笑顔あふれる空間を作り上げました。

今後、地域社会との絆を大切にしながら、持続可能な未来づくりに貢献してまいります。





# 特集 3

## 【『Connect 2024 in Koriyama , with UDC』 ハッカソンで郡山市長賞受賞！】

### (1) イベントの紹介

今回で11回目となるハッカソン、  
「Connect 2024 in Koriyama, with UDC」において、  
エフコムが「郡山市長賞」を受賞しました！  
当イベントは2024年11月30日～12月1日の2日間に  
わたり郡山市民交流プラザにて開催されました。  
「郡山の過去と未来をつなぐ『今』、新たな未来に  
向けたアイデアやビジョンを探求しよう」という  
テーマに沿って、地域に役立つアプリを企画・作成  
しました。



当日の発表の様子



参加メンバー 6名  
チーム名：FCOM Discovery in  
Koriyama

限られた時間の中、各々が地  
域の課題として感じている内容  
を幅広く持ち寄り、議論するこ  
とができました。

### (2) 作成したアプリケーションについて

未来共想型マッチングプラットフォーム

## 「Act for F!」

「この事業って何が目的なの？」市政  
について普段気になることはありません  
か？「Act for F!」は行政・企業の  
連携によるソリューションを提案する  
マッチングプラットフォームです。

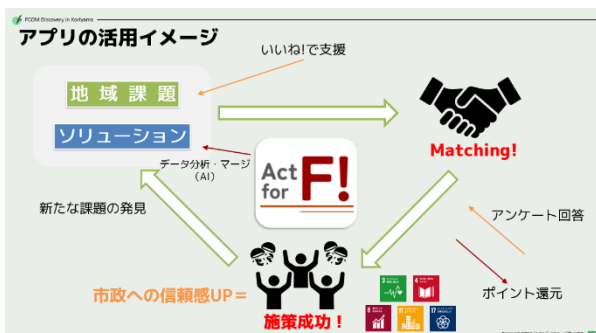
郡山市の課題、提案中・実現したソ  
リューション、市民の反応を見える化  
し、気軽に市政に参加するためのアプ  
リです。



### (3) ハッカソンに参加して

昨年に引き続き、生成AIを活用したアプリの作成に  
取り組みました。テーマが抽象的であったこともあり、  
参加した各チームの作品がSNSやマッチングアプリに偏  
る傾向がありましたが、社会人チームとして作成したア  
プリをどう運用していくのか、ユースケースを考慮して  
プレゼンを行いました。

結果として郡山市長賞という栄えある賞を頂くことが  
でき、貴重な経験となりました。



# 特集 4

## 【健康経営推進WGの活動について】

### (1) 「2025 みずウォークきたしおばら大会」への参加

社員の健康促進イベントとして、7月26日(土)に福島民友新聞社様主催の『2025 みずウォークきたしおばら大会』に法人として参加させて頂きました。会社としては、全員5キロコースで統一させて頂き曽原湖を1周するコースで景観を楽しみながら巡って頂きました。

快晴の空の下、絶好のウォーキング日和となり、さわやかな空気と豊かな緑を感じながらウォーキングを楽しむことができました。ウォーキングの終わりには、福島民友新聞社様が出店してくださった地元の野菜や果物などを、手頃な価格で購入することができ、とても楽しく気持ちの良い一日となりました。





## (2) エフコムBCコラボ企画

### 「川俣町つながる野球・ソフトボールフェスティバル」への参加

11月24日、「川俣町つながる野球・ソフトボールフェスティバル」に参加しました。当日は、エフコムベースボールクラブの選手の皆さんが、子どもたちに野球の楽しさを丁寧に教えてくださいました。会場は、日頃よりエフコムベースボールクラブの練習場としてお世話になっている福島県立川俣高校様のグラウンドをお借りして開催しました。天候にも恵まれ、まさにスポーツ日和となる中、川俣町内のスポーツ少年団やクラブチームが参加し、健康経営推進WGの活動の一環として当社社員も加わりました。開会式では川俣町長よりご挨拶をいただき、フェスティバルがスタートしました。午前中はストラックアウト、壘間走、スピードガン測定などのアクティビティを行い、その後、テレビでもおなじみの佐藤文男先生をお招きし、校内で料理教室を開催。温かい汁物を準備していただきました。昼食は、おにぎり、飲み物、川俣シャモの焼き鳥・つくね、そして料理教室で作った汁物を、参加者165名全員でおいしくいただきました。

スポーツに食事と、秋ならではの魅力をたっぷり満喫できた一日でした。



ストラックアウト



スピードガン測定



料理教室



壘間走測定



景品贈呈



# 地域への貢献（地域社会とともに）

## （１）みらい発見フェスこおりやま2025への参加

2025年7月9日、福島県郡山市で開催された高校生向けイベント「みらい発見フェスこおりやま2025」に参加しました。本イベントは、地元企業の仕事を体験し、地域の魅力を知ってもらうことを目的としています。

当社のブースでは、AIを活用し、テキストや音声から動画を自動生成する体験を提供しました。ICTの力で業務を効率化し、社会課題を解決できる可能性を高校生の皆さんに実感していただきました。地域の未来を担う高校生が、地元で働くことを選択肢の一つとして考えてくれることを願っています。

今回の取り組みを通じて、若い世代に新しい技術と地域の魅力を伝える機会を持てたことを大変嬉しく思います。



## （２）ふくしまシティハーフマラソンボランティアへの参加

ふくしまシティハーフマラソンは、2023年から福島市で開催されている5月のスポーツイベントの1つです。第1回大会に続き3回目の開催となる2025年も約25名のメンバーが大会運営のボランティアに参加しました。

### 【ボランティア内容】

コース内に設置されているエイドステーションと呼ばれる出場者をもてなすエリアにて、給水や福島市の特産品の準備から選手への配布、後片付けまでを担当しました。

ボランティア活動中は配給や準備のかたわら、自然とランナーの皆さんへ応援の声掛けが飛び交っていました。

今後も福島県内での地域貢献、活性化に寄与できるよう努めてまいります。





### (3) エフコムBC (ベースボールクラブ)



エフコムBCは、2021年3月から新たにスタートしたチームです。エフコム社員を中心に各企業のメンバーが集い、福島県伊達市を本拠地としています。高校や大学を卒業後も、志を持つ野球人が「野球でも仕事でも輝く」をスローガンに切磋琢磨し、常にチームや職務における頂点を目指して研鑽を積んでいます。

次世代の地域社会を担う社会人の育成



**野球で福島を元気に！**

繋げよう絆・広げよう地域の輪



社会経験豊富な選手、野球を学問として勉強してきた野球人が地域に根付き、次の競技世代を育んでいく活動に貢献しています。

また「野球で福島を元気に！」を具現化すべく、福島県の野球レベル向上、地域社会を担う人材の育成など、循環型の仕組み構築も目標の1つとして取り組みます。





# 2025年度シーズン 大会成績

- 【 5月】

第28回JABA福島市長杯争奪野球大会  
第96回都市対抗野球一次予選福島県大会
- 【 6月】

第96回都市対抗野球二次予選東北大会
- 【 7月】

第49回全日本クラブ野球選手権福島県大会  
第36回JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会
- 【 8月】

第49回全日本クラブ野球選手権二次予選東北大会
- 【 9月】

第49回全日本クラブ野球選手権全国大会  
第16回JABAスポニチ福島支局杯社会人選抜野球大会
- 【10月】

第19回JABA毎日新聞社杯社会人選抜野球大会  
第31回JABA東北地区連盟会長旗争奪野球大会（クラブの部）
- 優勝

優勝

出場

優勝

準優勝

優勝

出場

優勝

優勝

優勝



昨年の全日本クラブ野球選手権全国大会で決勝に負けた悔しさを胸にこの1年練習に励んでまいりました。今年は10大会に出場し23勝4敗。今シーズンも全国大会への出場を果たし満を持して臨みましたが、前年敗退したマツゲン箕島硬式野球部の壁を打ち破ることはできませんでした。更なる精進を重ねて、新しい景色を応援の皆様と共に見にいきます。

## 大応援団も奮闘！



## 伊達市様より表彰を受けました

昨シーズンの全日本クラブ野球選手権全国大会準優勝に対し、11月14日伊達市役所に於いて表彰状と記念のトロフィーの授与を受けてまいりました。



## 待望の室内練習場が完成

かねてより建設を進めておりましたエフコム室内練習場が、チームの本拠地である伊達市内に10月完成しました。投球練習場を2か所整備、打撃練習は3レーンで行うことができ、守備練習の際はネット解放でスペースアレンジが可能です。また、ウエイトトレーニングや壁当て設備も併設。

これまで冬場や雨天時には限られた練習を余儀なくされてきましたが、練習環境が大幅に向上することとなりました。





# 人を育む【エフコムの塾】

当社の重要な経営資源である『人財』が活躍するための塾を定期的 to開催しています。お客様のニーズにお応えするため、開発やプロジェクト管理スキルだけではなく、ヒューマンスキルの向上にも重点を置き、『人間力』の向上を目的に社員自らが講師となり、チームで成長できる取り組みを推進しています。

## 【教育方針】

- ◆企業理念と行動指針に基づく自発的行動と統制のとれた組織体作りを目標とする
- ◆上司・部下が行動、能力、業績の目標を共有し、それらを成長指標とする
- ◆自己啓発と自立型人材の育成を目指す

## ◆エフコムスマイル塾(F-minine活動)

エフコム内女性WG「F-minine活動」が中心となり、全社員に向けて健康やキャリアデザイン、美化活動など職場環境改善へ取り組んでいます。

## ◆SE塾

例年プロジェクトを成功に導くための基本知識や経験を伝えるPM塾と若手育成を目的とし開発基礎知識を深めるよう取り組むSE塾を開講しておりましたが、今年度よりSE塾に統一し、各部署ごとに取り組んでいる先進事例、スキル、トレンドを捉えた講座とし、個人のスキルアップとSE同士のつながりを強化し組織全体のレベルアップを図るよう見直しを図りました。

## ◆こころ塾

『こころを込めて育成に取り組む』  
『こころのこもったお客様対応を』  
を実現するために必要なヒューマンスキル、ソリューションスキルの向上に取り組んでいます。

## 【社内教育制度体系図】



## そんな数ある塾の中から、今回はエフコムスマイル塾の活動をご紹介します

### ◆運動不足解消アクティブトレーニングセミナー&ランチ交流会 in ドリーム・ラボ上伊豆島

「F-minineWG」の活動の一環として、社員向けの「エフコムスマイル塾」を開催しています。今回の開催で12回目となります。当日は協会けんぽの出前講座「運動不足解消アクティブトレーニングセミナー」のDVDを上映して実際にストレッチやスクワット等の運動を行い改善方法を学んだり、ミニゲームやランチ会を通して他部署の方と楽しく交流しました。

#### 【講座内容】

- ①ストレッチ
- ②アクティブトレーニングセミナー
- ③グループに分かれてミニゲーム
- ④ランチ交流会、ドリラボ見学会



#### 開催の様子

##### 1. ストレッチ



##### 2. アクティブトレーニング



##### 3. ミニゲーム (ポッチャ&チーム対抗ゲーム)



##### 4. ランチ交流会



### ◆活動について

エフコムスマイル塾では、上記以外にも男女ともに参加可能な「女性の健康」に関する女性特有の問題についてのセミナーを毎年度開催しております。今後の活動についても全社員を対象にワーク・ライフ・バランスに関する内容、人権に関する内容など、専門家の方のお話を聞くことができる講座を企画しております。少しでも多くの社員の方に参加していただき、働きやすい職場環境を目指して、社員が生き生きと活躍できる活動基盤構築のためにF-minineWGでは今後も様々な活動・講座開催を進めて参ります。

#### 【開催を検討している講座】

- 女性が生き生き働き続けるために
- ハラスメント防止のための基礎知識と相談対応のポイント
- 食生活に関する講座
- 椅子ヨガ、エクササイズ
- 休養・睡眠、メタボ対策

など





# 森を育む【エフコムの森】

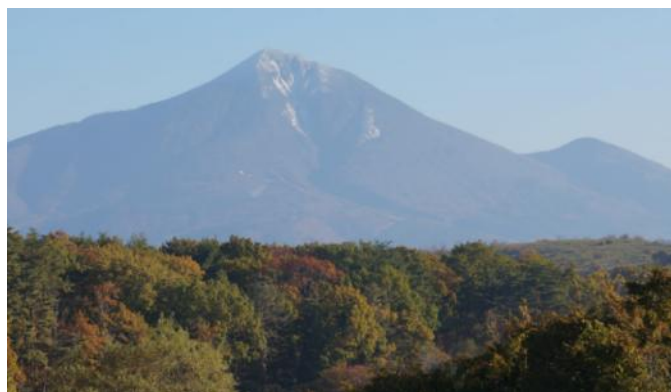


## ロケーションの紹介



- 所在地：会津若松市河東町
- 広さ：44.5ha(東京ドームの9.5倍)
- 樹種：針葉樹と広葉樹の混合林

磐梯山の南西山麓のとても静かな場所にあるのが、エフコムの森です。この森の意味は、環境共生に積極的に取り組む事で森の再生を目指しながら、社員やその家族の憩いの場として親しんでもらう事にあります。森は針葉樹、広葉樹からなり、小川や沼もあるまさに憩いの場としては最高のロケーションです。



## 水が豊富

エフコムの森には小さな綺麗な小川が流れており、いずれは水芭蕉とホタルが飛び交う環境へ再生したいと思います。ホタルが住む環境を維持する事もかなり大変な努力が必要ですが、皆で頑張ります。



## 木の実が豊富

木の実が豊富なのは森が豊かな証拠です。また、動物達を呼ぶ事になるので自然の回生が働き、更に森が豊かになります。



## 柏（かしわ）の木は百年続く企業の守り木

エフコムの森の広葉樹はコナラが多勢を占めます。その中で柏の木も比較的多く、翌年に新芽が出るまで古い葉が落ちない特性から「代が途切れない」縁起物として柏餅に用いられています。端午の節句に柏餅を食べるのもその由縁です。

百年続く企業を目指すエフコムにとっては正に縁起ものであり、大切にしていきたいと思います。



## 憩いの場としての活用

社員の憩いの場として活用することを目的として、エフコムの森では、定期的にイベントを開催しています。

2021年9月には山小屋(トイレ完備)も新設された為、社員だけでなく、家族を対象にしたイベント等も積極的に開催し、より一層の活用に向け取り組んでいきたいと思います。







## 桐の植樹祭の様子

■豊かな森を作るための活動の一環として、新入社員による桐の植樹祭を2019年から定期的開催しています。厳しい寒さと豪雪が特徴的な気候である会津で生み出される「会津桐」は、緻密で美しい年輪を備えた光沢が特徴であり、全国の桐材のおよそ4割が福島県産といわれています。

《過去の植樹祭の様子》



## エフコムの森 やま学校の様子

■秋には、エフコムの森活用イベントとして「エフコムの森やま学校」を開催しています。

講師に本職のきこりさんを招いて、きこりさんによる樹木伐採の見学、チェーンソー体験、まさかりでの薪割り体験など、多様な活動を行っており、参加者からは普段の生活では体験できない森での作業を体感できると毎年大盛況です。また、芋煮会やBBQも行われ、美味しい料理が振る舞われます。

《過去のやま学校の様子》



木に吊ったブランコで  
ゆらゆら



チェーンソー体験



BBQ



芋煮会



参加者全員で記念撮影

# 共に育む【エフコムの輪】

## (1) 「水顧電(すいこでん)クラウド」の紹介



「水顧電」は、浄化槽維持管理およびし尿汲み取り管理業務を行う保守点検・清掃業者のためのシステムです。

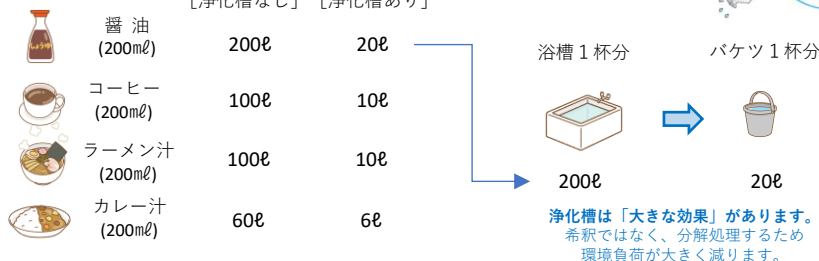
※2025年「水顧電クラウド」をリリースしました。

### 【浄化槽とは】

「浄化槽」とは、トイレ排水や台所・風呂・洗濯および洗面などの生活雑排水を微生物のはたらきを利用して処理し、きれいな水にして放流する施設です。

食材別の希釈水量比較 ※魚が住める水質にするまで

[浄化槽なし] [浄化槽あり]



### 合併処理浄化槽の特徴



出展: 環境省ホームページ

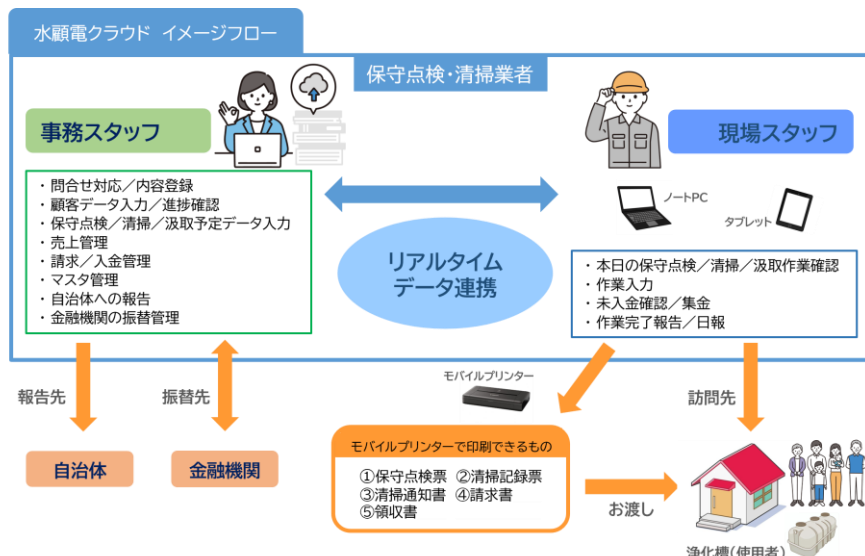
### 【浄化槽管理】

「浄化槽」の適正な維持管理を怠ると機能が低下し、汚泥の流出、悪臭の発生など、水質汚濁の原因となってしまいます。そのため浄化槽には法定点検が義務づけられ、受検しない浄化槽設置者には罰金も科せられます。

### 【水顧電の役割】

浄化槽の保守点検清掃業者は、浄化槽法に基づき「法定検査」「保守点検」「清掃」の3つの業務を行います。それらの業務をシステムで支援するのが「水顧電」です。業務の効率化はもとより、浄化槽設置者への統一された透明性のあるサービス提供により、利用される保守点検・清掃業者の社会的信頼を高め、浄化槽業界の健全な発展に貢献することを目的としています。

『水顧電クラウド』 浄化槽維持管理/し尿汲取管理システムの概要



### 【水顧電クラウドの機能】

#### 「事務システム」

浄化槽(設置基)、顧客(設置者)管理と点検・清掃の実施管理、料金管理に加えて監督機関である地元自治体に提出する法定調書を作成する機能を有しています。

#### 「現場システム」

これまで事前出力した紙情報を元に点検実施記録を手書きしていた作業を、モバイル端末でリアルタイムにデータを参照しながら行える機能を実装しました。

### 【エフコムの取り組み】

「福島県浄化槽協会」及び「宮城県生活環境事業協会」の賛助会員として、浄化槽管理業務に携わる皆様の活動の状況を勉強させていただいております。

水にかかる環境課題の解決に、少しでも寄与できるように取り組んでまいります。

是非「水顧電クラウド」を全国のお客様に、ご利用いただきたいと思います。



## (2) 「答べんりんく(Touben LinQ)」の紹介

「答べんりんく(Touben LinQ)～議会答弁検討システム～」は、地方公共団体の議会における質問取りから答弁検討までをオンラインで一元管理するシステムです。サブスクリプション型のクラウドサービスのため、個別のサーバ導入が不要で、契約後すぐにご利用頂けます。Web画面からオンラインで情報が更新され、複数の職員が入力した議会日程や質問内容、担当部局の割り振り、答弁の原案作成から修正、承認まで一連の流れをリアルタイムで共有することで、答弁書作成にかかる事務処理の効率化を図ることができます。

2022年12月から福島市での試験運用を経て、2023年4月より全国に向けて販売を開始しました。2025年11月現在、28団体にご利用いただいております。

### 4つの特長

1. 全関係者が質問・答弁の進捗状況をリアルタイムに共有  
オンライン更新で、更新状況をタイムリーに把握。  
答弁作成／承認／差戻のタイムスタンプを表示し、  
進捗を見える化。

2. ワープロや表計算、紙による管理の手間を削減  
質問と答弁は、リアルタイムにクラウドサーバ上で一元管理。  
PDF出力でペーパーレス化を実現。紙印刷削減により経費も削減。

3. 過去議会も含めた膨大な答弁書データを保持  
過去議会も含めた答弁情報もデータベースに保持し、  
同一システムで参照可能。過去議会データを蓄積したナレッジ  
により類似質問の有無や答弁内容を検索し、答弁作成を支援。

4. クラウドサービス (Internet/LGWAN) 低コストでスムーズな導入  
クラウドサービスのため、個別でのサーバ導入が不要になり低コストかつ短期間の導入を実現。  
サブスクリプション型サービスのため、契約後すぐにシステム使用が可能。



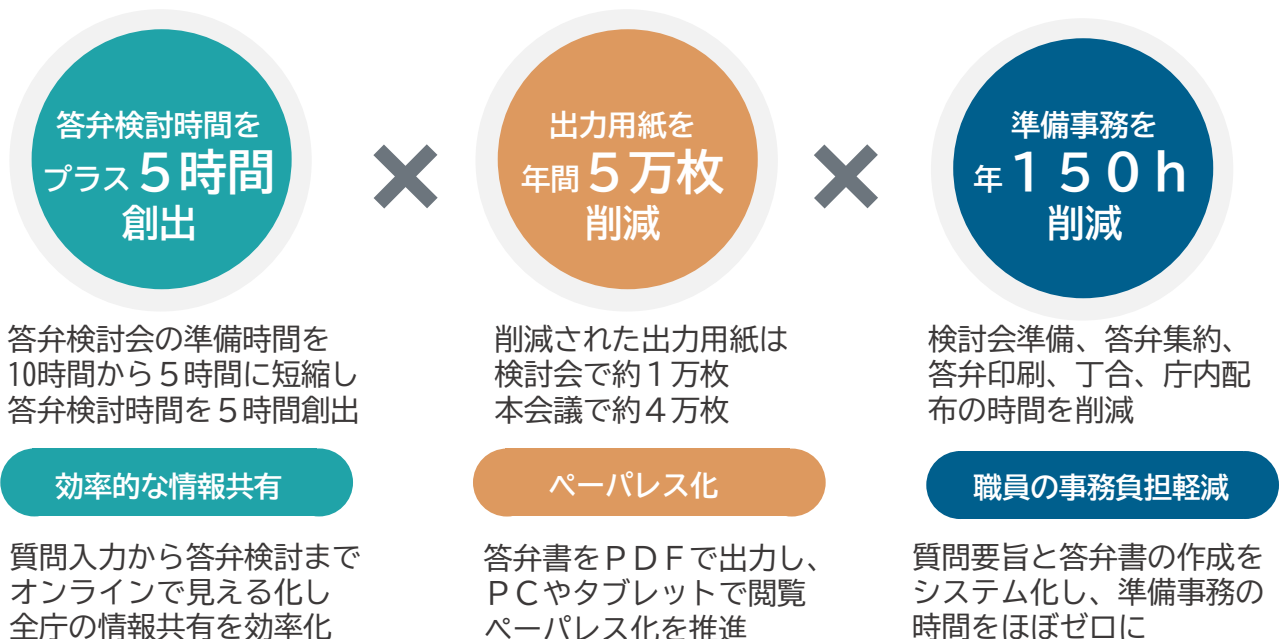
### 導入効果

福島市様では答弁検討会準備時間を10時間から5時間に短縮し、年間150時間の事務負担を削減しました。さらに、年間約5万枚の紙削減を実現し、ペーパーレス化による経費削減にも寄与しています。

杉並区様では管理職の93%が効率化を実感し、敦賀市や彦根市でも部局間調整の負荷軽減が報告されています。

今後も自治体DX推進の中核ツールとして期待されており、議会对応業務の標準化と効率化を強力にサポートします。

### 【福島市様の事例】



### (3) 「獣(じゅう)マップ」の紹介



#### 【鳥獣害対策の現状】

近年、福島県内でも野生鳥獣による農業被害が拡大しその被害額は高止まりしています。福島県における2023（令和5）年度の農作物被害額は、総額で約1.4億円（対前年度約+0.2億円）となっており、全国での同年度農作物被害額は、総額で約164億円（対前年度約+8.0億円）となっています。2025年度においては、クマによる人的被害が大きな問題となっており、直近の対応と継続的な対策が必要となっています。

被害対策の基盤となる情報管理について、農作物被害が発生している「場所」や「被害状況」、捕獲目的の罠の「設置位置」や侵入防止柵の「設置エリア」、捕獲や目撃、観測結果の「獣種や場所」などがあります。これらの情報は自治体の各担当部署に散在していることも多く、一元的なデジタル化がなされていないため、関係者間（県－市町村－地域対策実施隊－地域住民）での情報共有や被害対策につながる分析が困難な状況であり、対策が検討されております。



#### 【獣(じゅう)マップ】

2019年度から鳥獣害対策に係る課題を解消すべく、ICT、AI、IoT、デジタルを用いた実証実験を福島大学や会津大学と推進してきた中で、開発されたのが「獣(じゅう)マップ」です。

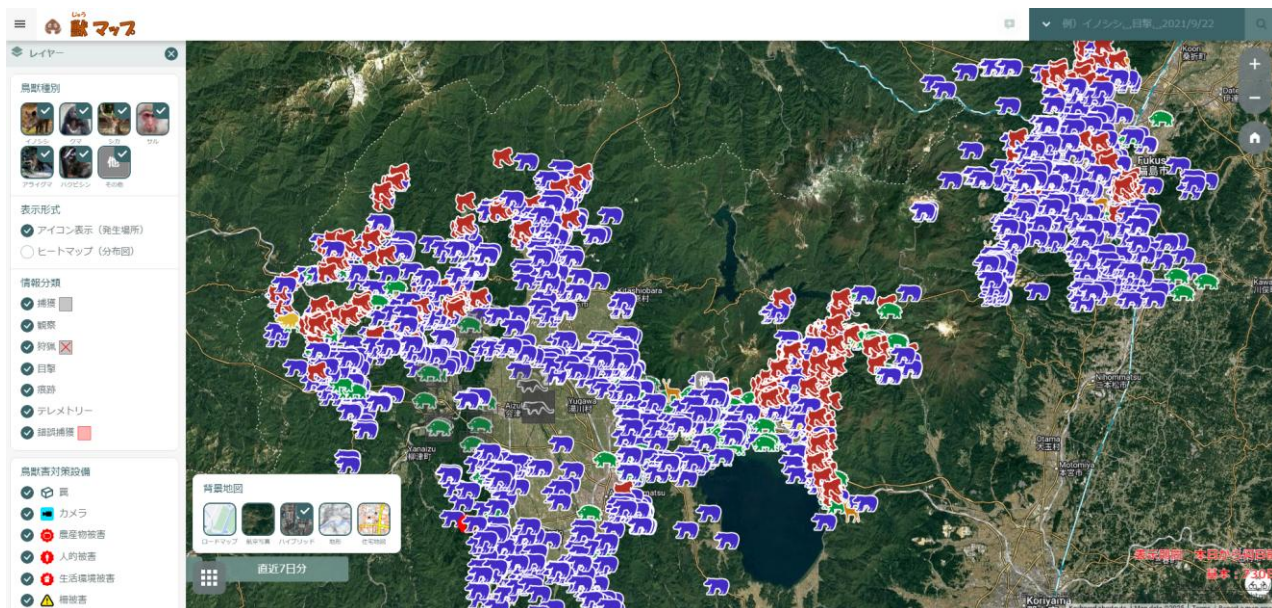
各市区町村における鳥獣害対策のさまざまな情報をICT技術を用いてWebサイト上に可視化することで、「地域住民」⇔「地域対策実施隊」⇔「地方自治体」での情報共有や効率的な連携を可能とし、対策の効率化・データの蓄積／分析・持続的な管理など様々な用途で効果を発揮します。

◇ 2025年度利用市町村数：11  
(本契約9、トライアル2)

◇ 監修：国立大学法人福島大学 農学群食農学類  
望月翔太准教授



<https://juumap.com/>





## (4) 「スッキリオーダーズ」の紹介

「スッキリオーダーズ」とは、病院の「一般消耗品」をWebで発注するシステムです。主に用度課様にご提案・ご案内を行っています。



### 【一般消耗品とは】

平たく表現すると「医療機器ではないもの」になります。一般企業と同じように、病院でも「ボールペン」や「ティッシュ」等、日々沢山の一般消耗品を利用し、病院の運営を行っています。

多くの病院では、一般消耗品を発注する方法はアナログとなりますが

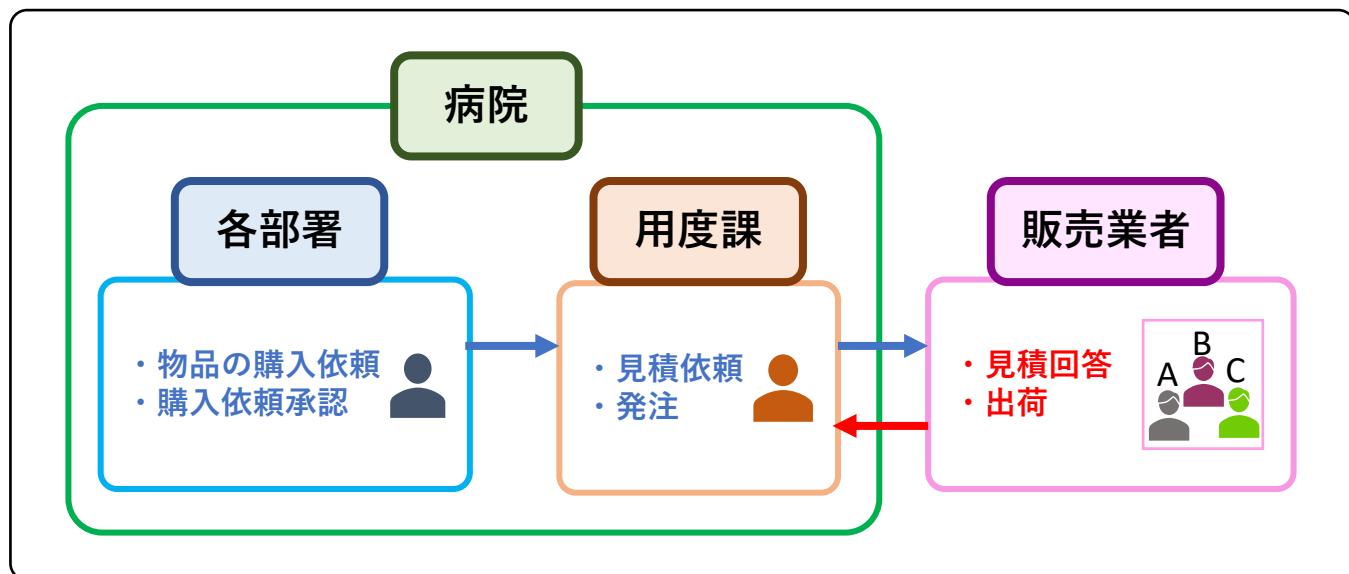
- ① 沢山の「病棟（入院のお部屋）や外来（診察するお部屋）」から
- ② それぞれが「紙」に欲しい一般消耗品を書いて
- ③ 離れた発注担当者（用度課様）に手渡ししている

こういった非効率的かつ紙を大量消費してしまう現状の運用があります。



### 【スッキリオーダーズができること】

詳細は下の図に記載しますが、最大の特徴はパソコンを使って「オンライン」で購入依頼から発注・納品まで完結できることです。下図がスッキリオーダーズの概要になります。



### 【スッキリオーダーズとSDGs】

スッキリオーダーズは2025年11月にファーストユーザ様が稼働した新しいシステムです。本システムにより、


- ① 病院事務作業のお手伝い→人手不足解消と業務効率化
- ② ペーパーレス化→環境保全（地球温暖化対策）





に貢献します。人手不足が全国的な課題となっている医療業界をサポートし、「持続可能な」病院経営に少しでも寄与できるように取り組んでまいります。

## (5) 「糖尿病クラスターAI分類」の紹介

### 福島県立医科大学様との共同研究



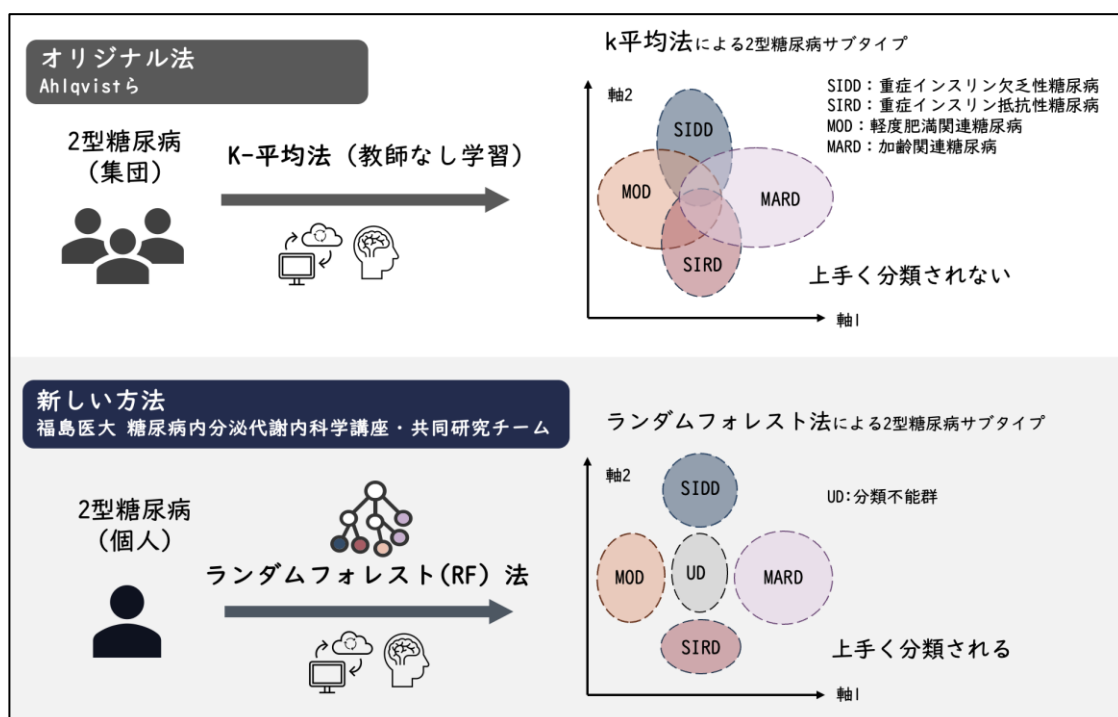
島袋充生主任教授
田辺隼人准教授

# 人工知能

を用いた  
2型糖尿病のサブタイプ分類（5つの分類）を行う  
アプリケーションのプラットフォーム構築

福島県立医科大学糖尿病内分泌代謝内科学講座の島袋充生主任教授、糖尿病内分泌代謝内科・総合内科・臨床感染症学講座の田辺隼人准教授と当社は共同で、人工知能を用いた2型糖尿病のサブタイプ分類（5つの分類）を行うアプリケーションのプラットフォーム構築を開始しました。

糖尿病は1型と2型に分類されます。インスリン分泌能が枯渇する1型糖尿病と、インスリン分泌能は残っているがインスリン作用が低下する2型糖尿病は、異なる病態（原因）によって発症します。特に2型糖尿病は、インスリン分泌低下とインスリン作用低下の程度が症例ごとに大きく異なり、病態に基づいた最適な治療の選択が困難とされています。



このアプリケーションでは、年齢や検査結果値を入力することで（個人を特定される情報の入力はない）、人工知能が教師データに基づいてどのサブタイプに分類されるかを表示し、患者様に対する最適な予防・治療方針を検討することができます。また、様々な人種に対応した画面レイアウトも提供する予定です。

島袋主任教授と田辺准教授には、プラットフォーム構築支援（「糖尿病分類アプリ」提供）、検証、結果分析の知見を教示いただきます。当社はプラットフォームの構築、検証、結果分析を担当します。

今後、共同研究の成果を全世界に向けて公開し、糖尿病の個別化医療につながるAIプラットフォームを提供できるよう努めてまいります。



## (6) 「ふくしま共創チーム」の紹介

福島県の人口は2025年末時点で約171万人、1998年のピーク時214万人から40万人以上減少しています。特に、若年層、女性の県外転出が顕著であり、婚姻数の減少や出生数の減少につながるなど、人口減少が加速している状況にあります。

福島県では、この状況に立ち向かうためには、県内の産官学民が一体となり、人口減少への危機感を共有し、共に課題を探り、地方創生・人口減少対策を検討・実行することが重要とし、令和7年7月16日に「ふくしま共創チーム」を設立しました。

同日、ふくしま共創チーム設立にあたってのキックオフミーティングが福島市内で開催され、専務の二瓶がパネリストとして参加しました。

キックオフミーティング冒頭、内堀雅雄福島県知事は「市町村や企業・団体の皆さんとの連携をさらに深め、共に考え共に挑戦する『共創（共に創る）』によってオール福島で豊かな福島を目指したい」と述べていました。



パネルディスカッションでは、「変化をチャンスに。新たなふくしまへ、共に創る」をテーマに、福島の実情について熱い議論を交わしました。

エフコムは今年創立45周年、社員の約9割が福島県出身で、地域に根差した総合ICT企業です。内堀知事からは、「エフコムさんのように地域に根差した企業がICTを切り口にしながら地域を元気にするために幅広く展開されている」「福島に根付いた企業として地元の方が喜んで就職できる企業として頑張ってください。地方創生として大事な姿」と評価いただきました。

私たちは、ICTを活用しお客様のイノベーション推進はもちろん、社員の働きがい向上、くるみん・健康優良法人認定取得、男性育休100%推進、女性活躍推進にも注力しています。さらに、廃校活用やスポーツ振興、自然保全などの地域貢献活動は、昨年フランス・パリでサステナビリティアワードを受賞するなど、国内外で評価されています。

9月からは、ふくしま共創チームの活動として、県内3地域（浜・中・会津）で学生や企業・団体、市町村の若手職員を中心に構成するワーキングチームの活動が開始され、エフコムからは人事総務部の柳田が参加しました。

2度開催されたワーキングチーム活動では、人口減少対策につながる課題として、魅力的な働き方や地域への愛着形成をテーマに議論を行いました。

若者視点から見た福島の実情や、「こんな企業で働きたい」「こんな地域で生活したい」という理想を叶えるために企業・行政はどんなことを行うべきかなど、様々な立場から議論しました。

これらの議論は学生がとりまとめ、2月の活動報告会にて、ふくしま共創チームをはじめ県全体に共有されます。私たちの議論・意見が、これからの福島を作っていくための一助になればと思います。

エフコムは、福島の実情を拓く重要な責任を果たすべく全社一丸となり、取り組んでまいります。



# 信頼への取り組み

## (1) 品質向上 (ISO9001) への取り組み

当社のシステム部門は、ソフトウェア開発サービスを行う情報サービス業として、品質の重要性を認識し、2001年10月に品質マネジメントシステム (QMS) を制定しました。

2002年6月に、財団法人日本品質保証機構のJQAマネジメントシステム登録の公表と登録マーク使用の認定を受けましたが、2010年3月より日本検査キューエイ株式会社に認証機関を変更し、2018年7月には2015年版適用規格に変更認定されました。また、2021年度には公共ソリューション部、2023年度にはドリーム・ラボ上伊豆島を登録範囲に加え、より一層の品質向上への取り組みを図っております。



REGISTERED ORGANIZATION  
No. 4177-ISO9001

システム本部  
郡山本社 / JAオフィス /  
ドリーム・ラボ上伊豆島

登録組織：株式会社エフコム システム本部

登録範囲：顧客要求仕様に基づくソフトウェアの設計及び開発・導入

(要員派遣・設計開発を伴わないお客様をフォローするための保守・アウトソーシング業務は除く)

登録範囲に含まれる事業所：

システム本部 (郡山本社) / JAオフィス / ドリーム・ラボ上伊豆島 /  
株式会社エフコムマーケティング ソリューション事業本部 自治体ソリューション部、産業ソリューション部、イノベーションシステム部

品質マネジメントシステムの目的は、登録組織のプロジェクトおよびプロセスに対して適用され、品質の作り込みと維持活動を継続的に行うことにあります。製品やサービスの品質を継続的に改善し、これまで以上にお客様にご満足いただけるよう努めております。

## (2) 情報セキュリティマネジメント (ISO27001) への取り組み

当社のシステム運用部門は、2000年に情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を制定し、2003年9月にISMS (Ver2.0) の認定を取得、2007年9月にISO27001への移行認定を受けました。

認定規格は当社のDCサービス部、インフラサービス部の基盤運用およびシステム運用に係わる福島データセンター、会津iDCの業務、要員に適用され、認定に基づく情報セキュリティマネジメント活動を日々行っています。

また福島データセンターは、FISC安全対策基準 (設備基準) の認証を受けています。



REGISTERED ORGANIZATION  
No.1247-ISO/IEC27001

福島データセンター  
会津iDC

登録組織：福島データセンター、会津iDC

登録範囲：受託計算サービスの運用、ホスティングサービスの運用、  
ハウジングサービスの監視、クラウドサービスの運用

ISO27001を取得することで、お客様の情報資産を様々なリスクから守り、安定した運用サービスを提供いたします。



### (3) ITサービスマネジメント (ISO20000) への取り組み

当社福島データセンターのシステム運用部門は、2014年にITサービスマネジメントシステム (ITSMS) を制定し、2015年3月にISO/IEC20000-1の認定を取得しました。

ISO20000-1は、お客様のニーズとビジネス要求に合致したITサービスを提供するための一連の仕組みが備わっていることを証明する認証資格です。

登録組織 : 福島データセンター

登録範囲 : 福島データセンターにおけるハウジングサービス

ISO20000を取得することで、当社ITサービスに対するお客様の信用・信頼を高め、サービスの満足度向上に取り組んでいます。



### (4) クラウドサービスセキュリティ(ISO27017)への取り組み

当社のクラウドサービスは、2019年9月に「ISMSクラウドセキュリティ認証 (適用規格: JIP-ISMS517-1.0)」への適合認定を受け、クラウドセキュリティの国際規格となるISO/IEC27017の認証を取得しました。

この規格はクラウドサービスの普及によりクラウド環境のセキュリティ対策の重要性が高まる中で、ISMS情報セキュリティマネジメントシステムをベースにクラウドサービス特有の情報セキュリティ対策にフォーカスした管理策が示されており、当社はこれに準拠したクラウドサービスの運用管理を実施しています。

登録組織 : 福島データセンター

登録範囲 : 福島データセンターにおけるクラウドサービスプロバイダーとしての IaaSサービスの提供

- ・エフコム コミュニティ クラウド
- ・エフコム プライベート クラウド

ISO27001に加えISO27017を取得することで、クラウドサービスのセキュリティ強化につなげ、お客様へより安全で安心なクラウドサービスを提供いたします。



### (5) 個人情報保護 (Pマーク) への取り組み

当社では1998年10月に個人情報保護マネジメントシステム (PMS) を制定し、1999年2月、一般財団法人日本情報経済社会推進協会のプライバシーマーク付与認定を取得しました。また、プライバシーマーク制度は発足から2023年で25周年を迎えましたが、当社が制度創成期からPマークの適格を長年維持していることが評価され、同協会より表彰を受けました。

当社のPマークの適用範囲は、役員、正社員のみならず、契約社員、パート、アルバイト、派遣社員を含む全従業員を対象としています。

事業カテゴリとしては受託開発業務、情報ソリューションの提供、アウトソーシングサービス、パソコン講習などでは多くの個人情報を業務で取り扱っており、早くから情報保護の重要性を認識した取り組みを行ってきました。プライバシーマークを維持することは、情報セキュリティを維持する意味においても、その活動は有効に機能しています。

情報サービスを扱う企業として、個人情報保護マネジメントシステム (PMS) に沿った運用を徹底することで、個人情報の全てについて適切な取り扱いに努めています。



# データセンターが貢献する サステナブル社会

## (1) データセンターの紹介と環境負荷低減

福島データセンターは CO<sub>2</sub> 排出量を抑制し環境への負荷軽減を図るために、電力消費量を抑える取り組みを実施しています。

データセンターの消費電力の約3割はサーバの排熱を処理する冷却に使用されるのが通説となっており、いかに冷却効率を高めるかが消費電力を抑えるポイントとなっています。福島データセンターはサーバの排熱を完全に密閉し排熱だけを冷却するHACS(Hot Aisle Containment System)を導入し冷却範囲を局所化する事により冷却効率を高めています。合わせてDCIM(Data Center Infrastructure Management)との組み合わせにより、排熱量により空調ファンの回転数を最適に制御する仕組みや水冷式空調機の導入で消費電力を削減する仕組みも導入しています。寒冷地のロケーションを活かし空調機の冷媒を外気で冷却するフリークーリングシステム、太陽光発電の活用、敷地の緑化など様々な取り組みにより環境負荷の低減に取り組んでいます。

### 【福島データセンター概要】



立 地：福島市、敷地面積（9,614㎡）  
建 屋：3階建て、免震、延床面積（3,216㎡）  
設 備：高規格仕様（高い「信頼性・安全性・可用性」）  
J-Tier 4 相当  
環 境：再生可能エネルギー採用、省エネ設備

#### <主な認証>

- ・ISO/IEC27001：2022
- ・ISO/IEC27017
- ・ISO/IEC20000-1：2018
- ・プライバシーマーク
- ・FISC安全対策基準（設備基準）
- ・LGWAN-ASPファシリティサービス登録事業所
- ・医療情報システムに関する安全管理ガイドライン準拠
- ・総務省：届出電気通信事業者1-12-366

### 太陽光発電



太陽光発電をサーバールームで消費

### HACSシステム



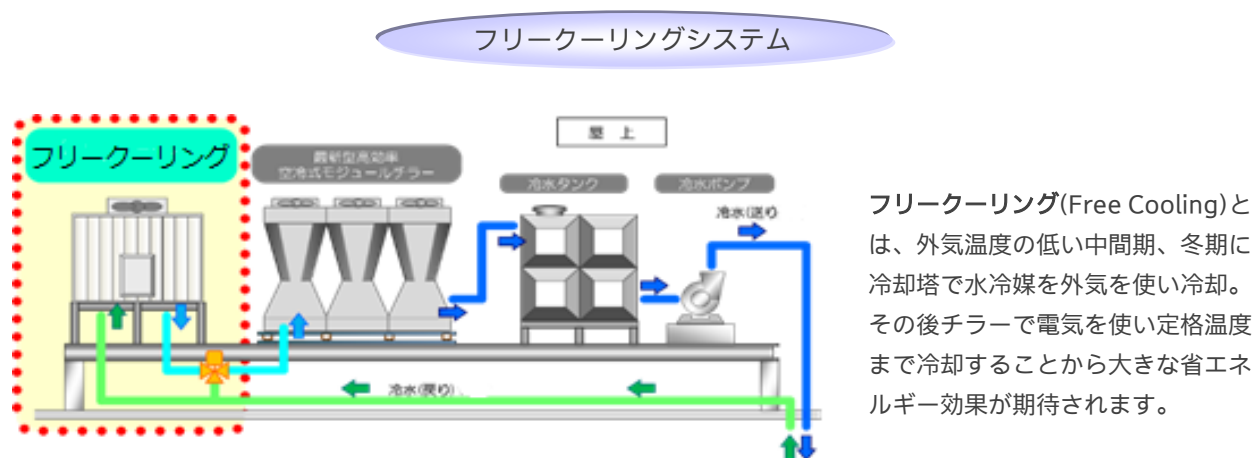
水冷式空調を採用しホットアイルを完全密閉したモジュール型ラックを採用



電力コストは、お客様の負担にもつながります。  
高効率な空調機とフリークーリングの活用により、環境にも、お客様のビジネスにも  
やさしいデータセンター、それが福島データセンターです。

## 排熱の封じ込みとフリークーリングで、高効率で自然環境にやさしい冷却システムを実現

自然環境にやさしいデータセンターを実現するため、東北地方の寒冷な気候を生かしたフリークーリングや太陽光発電などを取り入れてます。自然エネルギーを最大限に活用することで、CO<sub>2</sub> 排出を可能な限り削減しています。データセンター全体の電力消費量の中で冷却の消費電力量は大きな割合を占めます。そこで、高効率な冷却システムを導入することで電力効率としては、PUE1.3を目標に排熱の封じ込めと水冷式空調機を採用しました。



## (2) データセンターが高度に共助し貢献する「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について

FCAセンター相互応援コンソーシアム（以下:コンソーシアム）は、大規模な災害や事故等が発生した際、コンソーシアム会員相互の協力によりデータセンター等の重要業務の継続と早期復旧を目的として、2024年10月に設立されました。

近年、データセンターを取り巻く環境は急速に変化しており、前述のリスクに加え、エネルギー問題や人材不足、クラウド化の進展など、運営上の課題は多岐にわたります。こうした背景から、本コンソーシアムは単なる災害時の相互支援にとどまらず、外的変化への対応や新たなセンタービジネスの創出を目指し、「事業継続」と「センタービジネス」を軸としたワークグループ活動を2025年より新たに展開しています。

去る11月20日には、山梨県にてコンソーシアムの全体会議が開催されました。会議では、事業継続から「サイバー攻撃対策」に関する取り組みを報告し、センタービジネスは「マーケティング」「人材関連・育成」「クラウド展開」に関するワークグループの活動成果を共有しました。これらの報告は、コンソーシアム会員間での知見交換や課題共有を促進し、今後の具体的な施策につながる重要な機会となりました。

今後もコンソーシアム会員間の連携を強化し、「話題に応じた専門担当者の参加促進」や「ワークグループで細分化されたテーマの深掘り」を進めることで、実効性のある取り組みを推進していきます。また、顔の見える関係づくりを重視し、オンラインとオフラインを組み合わせた交流の場を設けることで、信頼関係を基盤とした協力体制を構築いたします。

### (3) プリントBPOサービスの展開

当社は、2014年に福島データセンターを開設して以来、プリントBPOサービスを本格的に展開し、公共・民需・医療といった幅広い分野でお客様の業務効率化とコスト削減に貢献してまいりました。

公共分野では、住民記録、税、福祉などの総合行政システムに関連する印刷・封入封緘業務を担い、東日本地区の17団体にサービスを提供しています。民需分野では、給与明細や組合員費など、流通業務に特化した印刷サービスを4団体に提供しています。企業のバックオフィス業務を支援することで、人的リソースの最適化や業務負荷の軽減を実現し、顧客企業の競争力強化に寄与しています。さらに、医療分野では、検診システムやストレスチェックなど、企業社員向けの印刷・封入封緘サービスを展開し、健康経営を推進する企業をサポートしています。各分野とも、個人情報扱う業務となりますので、厳格なセキュリティポリシーと設備を導入し、信頼性の高いサービスを提供しています。



こうした取り組みの中で、2021年には東北地区のICTベンダーとして初めて大型ロール紙プリンタを導入しました。この設備投資により、プリントBPOサービスの品質と生産性を飛躍的に向上させることができました。大量印刷の効率化、納期短縮、コスト削減を実現し、顧客満足度の向上に直結しています。また、環境負荷低減にも配慮し、省エネルギー型機器の採用や廃棄物削減に取り組むことで、持続可能な事業運営を目指しています。



今後の展開として、2026年4月には新たに関東BPOセンターを開設し、プリントBPOサービスの事業基盤をさらに強化します。これにより、東日本全域にわたるサービス体制を一層充実させ、より迅速かつ柔軟な対応が可能となります。加えて、ハイブリッドBPOサービスの展開を進め、デジタルと紙の両面からお客様の業務を支援します。具体的には、電子データと紙媒体を組み合わせたソリューションを提供し、業務効率化と付加価値の創出を実現します。





# エフコムグループ45周年特集

エフコムグループは2025年9月12日に創立45周年を迎えました。

この節目にあたり、社員同士の交流を深め、これまでの歩みを振り返る機会として、創立45周年記念の社員旅行を実施いたしました。日常の業務から離れ、共に過ごす時間を通じて、リフレッシュするとともに、新たな仲間意識や一体感を育む良い機会となりました。

## ◆行先

北海道

## ◆日程

1班：2025年10月17日～10月19日    2班：2025年10月18日～10月20日

3班：2025年11月7日～11月9日    4班：2025年11月8日～11月10日



「サッポロビール北海道工場」「白い恋人パーク」「大倉山ジャンプ競技場・オリンピックミュージアム」を見学しました。小樽観光や「おたる水族館」、さらに札幌市内では「札幌時計台」「赤レンガ庁舎」「北海道神宮」なども巡り、北海道の魅力を凝縮した充実の旅となりました。





夜は、宿泊先ホテルの宴会場で合同宴会を開催しました。地元団体による迫力満点の「YOSAKOIソーラン演舞」を披露いただき、社員も一緒に踊って楽しみました。さらに、旅行券や家電など豪華景品が当たる大抽選会も行い、笑顔と歓声に包まれた時間となりました。

次の節目である50周年に向けて、さらに力を合わせて頑張ってまいります。





# 株式会社エフコム 45年のあゆみ

1980年  
代

1990年  
代

2000年  
代

2010年  
代

2020年  
代

1980年9月 富士通エフ・アイ・ピー(株)と地元有力企業及び個人の共同出資により、資本金5千万円でスタート

【設立：1980年9月12日

株式会社 福島ファコムセンタ としてスタート】



1981年4月に実施された、設立披露パーティの様様

1981年4月 汎用機 FACOM M140F を導入  
地元健康保険団体連合会・地元信販会社クレジット業務のソフト開発開始



1980年  
代

1990年  
代

2000年  
代

2010年  
代

2020年  
代

1981年7月 地元タイヤ販売会社「債権・販売・在庫管理」業務処理開始

1981年8月 福島市に福島事務管理センタを開設し、データエントリーマシンXL-40を15台導入

1981年12月 FACOM M140F に F6715（日本語ラインプリンタ）増設

1982年4月 地元健康保険団体連合会・地元信販会社業務委託処理開始  
F6317（光学読取装置）導入

1982年7月 資本金1億円に増資

1983年1月 富士通エフ・アイ・ピー(株)とマシン(FACOM M340R)共同利用開始

1983年4月 地元石油販売会社「SS業務」、地元診療所「医事会計」業務処理開始  
東京都港区新橋の富士通エフ・アイ・ピー(株)内に、東京事務所開設  
地元信販会社のクレジット業務処理に、CDオンライン機能追加

1984年1月 全国ネットワーク（富士通VAN）アクセスポイント基地開始

1984年11月 福島事務管理センタを、支社へ昇格

1985年4月 地元電算センターマシン運用管理業務受託開始

1985年7月 地元キャプテンサービス会社の運用管理業務開始

1985年10月 データエントリーマシン DP9070 にレベルアップ

1986年8月 地元キャプテンサービス会社とマシン（FACOM M340S）共同利用開始

1987年10月 地元テレビ会社「営業放送システム」業務処理開始

1988年12月 ホストマシン FACOM M340U にレベルアップ

1989年5月 郡山本社・福島支社にショールーム開設  
福島支社システム部・営業部等読売民友ビル別館へ移転

1989年8月 東京寮設備（19部屋）拡張移転

1989年12月 福島支社エントリー課読売民友ビル別館へ移転



1980年  
代

1990年  
代

2000年  
代

2010年  
代

2020年  
代

1990年4月 会津若松市内に、会津事務所開設

1991年4月 会津若松市内の会津事務所を、会津営業所に昇格

1992年4月 システム開発本部を開設し、野村証券ビル（郡山駅前）に移転

1993年5月 東京事務所を東京支社へ昇格

富士通エフ・アイ・ピー(株)FENICS東京第二センタ（川崎市中原）内に移転

1993年6月 『平成4年度富士通ディーラー全国伸長功労賞（C2ランク1位）』受賞

1995年8月 資本金1億5千万円に増資

1996年3月 福島支社を、福島駅前ユニックスビル（福島市栄町6-6）へ移転

1996年4月 本社を、エディソン・ファコムビル（郡山市堤下町13-8）へ移転



1996年6月 会津若松市内の会津営業所を、会津支社に昇格

1996年12月 通産省『安全対策実施事業所』として認定

1997年3月 通産省『システムインテグレータ企業』として登録

1997年4月 仙台市内に仙台支社開設

1998年3月 通産省『特定システムオペレーション』として認定

2020年  
代

“ 福島から、世界へ羽ばたこう ”

英文のエフを、大空に羽ばたく鳥にシンボライズ。中心に地球を配し、世界を視野に入れた積極性を表現。



福島から、世界へ羽ばたこう。

東京支社

本社 御山支社

福岡支社

白津支社

山崎支社

山崎支社

山崎支社

山崎支社

山崎支社



株式会社 エフコム



1980年  
代

1990年  
代

2000年  
代

2010年  
代

2020年  
代

2000年4月 インターネットプロバイダー事業 e-sense を開始

2000年5月 インターネットステージを郡山市に開設



2002年6月 システム本部で『ISO9001:2000』を取得

2002年10月 仙台支社を、橋本地所仙台榴岡第二ビル  
(宮城県仙台市宮城野区榴岡4-5-15)へ移転

2003年3月 経済産業省『システムインテグレーション企業』として認定

2003年5月 ホストマシン GS8300E/10S から、PRIMEFORCE 2105M に入替

2003年8月 資本金2億7千万円に増資

2003年9月 日本品質保証機構『情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)』認証

2004年5月 会津若松市内に会津iDCを開設



1980年  
代

1990年  
代

2000年  
代

2010年  
代

2020年  
代

2004年6月 ホストマシン PRIMEFORCE 2105M から PRIMEFORCE 2115M にバージョンアップ

2004年7月 東京支社を、日通銀座ビル（東京都港区東新橋1-2-8）へ移転

2005年3月 郡山本社、会津iDCで『ISO14001:2004』を取得

2006年1月 情報サービス本部をNBFユニックスビル6階（福島市栄町6-6）へ移転

2006年5月 営業本部をTS郡山本町ビル（郡山市本町1-4-15）へ、東京支社を、MID日本橋堀留町ビル（東京都中央区日本橋堀留町1-7-7）へ移転

2007年7月 株式会社ココム（東京都）と株式譲渡締結

2008年11月 株式会社福交電算システム（福島県福島市）と株式譲渡締結

2010年9月 株式会社エフコム 創立30年を迎える

2011年12月 東京支社を、友泉岩本町ビル（東京都千代田区岩本町2-3-3）へ移転

2012年12月 ホストマシン PRIMEFORCE 2115M の全業務終了により撤去  
[当社における創設以来の汎用機業務の終了]

2013年7月 株式会社福交電算システムを株式会社エフコム福交システムズへ社名変更

2014年9月 福島市内に福島データセンターを開設



2015年3月 福島データセンターで『ISO20000』を取得



1980年  
代

1990年  
代

2000年  
代

2010年  
代

2020年  
代

2015年6月 代表取締役会長 兼 CEOに酒井 良信が就任  
代表取締役社長 兼 COOに瓜生 利典が就任

2016年4月 株式会社エフコムホールディングス設立  
株式会社エフコムホールディングスの100%子会社となる

2016年10月 エフコムの森 管理・保全開始

2017年4月 関係会社 株式会社エフコムサービシーズ（カナダ）設立



カナダ大使館で実施された、オープニングセレモニーの様様

2019年4月 会津若松市内にFCOM・DIGITAL・LABを開設



2019年9月 福島データセンターで『ISO27017』を取得

2020年3月 経済産業省「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」認定

2020年9月 株式会社エフコム 創立40年を迎える

2020年10月 経済産業省「地域未来牽引企業」選定

2020年12月 関係会社 株式会社エフコム福交システムズを  
株式会社マイコムへ社名変更（本社を宮城県仙台市へ移転）

1980年  
代

1990年  
代

2000年  
代

2010年  
代

2020年  
代

2021年6月 代表取締役社長 兼 COOに斎藤 正弘が就任

2021年10月 「再エネ100宣言 RE Action」へ参加

2021年10月 「くるみん（子育てサポート企業）」に認定

2022年4月 ドリーム・ラボ上伊豆島が開設



オープニングセレモニーの様様

2024年4月 サステナビリティアワード受賞



2024年4月 大泉球場ネーミングライツの獲得

2024年11月 「建設業許可（電気通信工事業）」を取得

2025年9月 株式会社エフコム 創立45年を迎える

TO  
THE FUTURE...



# ビジネスインフォメーション

## System Integration 導入システム企画

豊富な業務システムの構築経験を活かし、システムのライフサイクルに基づく最適化をサポートいたします。お客様のニーズにお応えできる専門家集団として、企画・構築・運用をトータルにご支援いたします。

## Cloud Service クラウドサービス



最先端のICTと長年培ってきた業務ノウハウから生み出されたビジネスプラットフォームです。従来の枠を超えて、お客様の事業革新とビジネス加速をご支援いたします。

## Software Design ソフトウェア開発

多くのソフトウェア開発実績を保有します。IoTによるデータ解析やモバイルデバイスの新たな活用など、先端システムへの対応もいたします。

## Business Process Outsourcing 業務アウトソーシング

お客様の業務を定型化し弊社スタッフがお客様に代わり業務運用を担当いたします。お客様は本来の業務に資源を集中する事が可能になります。



## Field Support お客様サポート

コールセンター、カスタマーサービスなど、常にお客様の身近な存在でサポートいたします。そしてお客様への安心と満足を提供いたします。



## Product Service パッケージソフト開発

当社の長年にわたるシステム開発実績で蓄積されたノウハウを提供することにより、短期間でお客様にソリューションを提供いたします。



## Information Devices sales Supply sales

### 情報機器／サプライ品販売

PC、タブレット、サーバー等の情報機器を提供いたします。

また、プリンタトナーや各種PCアクセサリなどの消耗品も豊富に品揃え、毎日のオフィスワークをトータルにサポートいたします。



## Media Archive Service メディア・アーカイブサービス

お客様の貴重なメディア媒体を、安全安心にご指定の媒体へデジタル化いたします。

また、デジタル化されたデータを高度なセキュリティを確保した当社のデータセンターに保管し、クラウド上で検索・編集するサービスもご提供しています。

## Security Support セキュリティ対応

日々高度化、巧妙化するサイバー攻撃への対策は、ICTを安心安全に活用していくための大きな課題となっています。お客様のセキュリティ環境が常に最適な状態を維持できるためのご支援をいたします。

## 会社概要

社 名：株式会社エフコム F-COM Co.Ltd.  
本 社：〒963-8520 福島県郡山市堤下町13番8号  
代 表 者：代表取締役社長 斎藤 正弘  
設 立：1980年9月12日  
資 本 金：2億7千万円  
売 上 高：92億5千万円（2025年3月期）  
従 業 員 数：358名（2025年11月30日現在、正社員数）  
関 係 会 社：株式会社エフコムホールディングス  
株式会社エフコムマーケティング  
株式会社マイコム







#### <本報告書の対象範囲>

(対象期間)

2025年1月1日～2025年12月31日

ただし、一部には2024年12月以前、2026年1月以降の  
考え方、取り組み及びデータ等が含まれます。



エフコムHP



報告書バックナンバー

●発行日／2026年1月15日

●発行／株式会社エフコム 福島県郡山市堤下町13番8号 TEL：024(922)2555 FAX：024(922)2696

●発行責任者／代表取締役社長 斎藤 正弘

●発行部署／広報委員会

●企画・編集責任者／鞠子 政明

※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。